

中部フーズがバローの北欧倶楽部向け

恵那にパン工場新設



パンを生産する中部フーズの新工場＝恵那市長島町正家、北欧倶楽部 恵那工場

バローホールディングス(HD)の子会社で総菜製造販売の中部フーズ(多治見市)は、スーパーマーケットのバロー向けにパンを生産する工場「北欧倶楽部 恵那工場」を恵那市内に整備し、17日から稼働を始めた。パン工場は2カ所目。バローの店内で焼き立てパンを提供するインスタペーカリーが好調で、工場の増設で供給体制を強化する。

(松浦健司)

売り上げ好調で供給体制強化

新工場は鉄骨平屋で、グループが所有する敷地内に新設した。床面積は約1022平方メートル。多治見市のパン工場「北欧倶楽部 明和工場」から一部の機械を移設したほか、パンを焼成する機械も新調した。フランスパンや食パン、クロワッサン、ドーナツ類を生産する。

バローでは「北欧倶楽部」のブランドで焼き立てパンを販売。大半は店内で焼き上げるが、恵那工場は店内焼成をしていない一部の小型店向けに生産する。明和

工場は空いたスペースを使って、大半の店舗で使う、パンを焼く前の段階のパン生地を増産し、生産と供給体制を再編成する。

北欧倶楽部はウインナーロールやアップルデニッシュを1個税別98円で販売し、物価高の中で顧客を引き付ける。1店舗当たりの売り上げの伸びとバローの店舗数の拡大、同社が運営するカレーパン専門店「ガラムとマサラ」の出店増で、ベーク事業の出荷高は3年間で30%以上増えた。中部フーズの担当者は「今後も継続した事業成長が見込める」としている。